

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

【研究課題名】 脊椎手術後の患者管理型静脈内鎮痛薬投与による疼痛管理に関する後方視的調査

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 麻酔科 職位・氏名 教授・小竹良文

【研究の目的】

東邦大学医療センター大橋病院麻酔科では、脊椎手術の術後疼痛対策として機械式ポンプを用いて鎮痛薬の患者管理型静脈内投与を行ってきました。機械式ポンプとは図のような形状をしたポンプであり、輸液(点滴)ラインに接続して鎮痛薬を持続的に投与する装置です。

この装置の特徴として図の下に示したスイッチが付属しており、患者さんが痛みを自覚された際にこのスイッチを押し下げることによって一定量の鎮痛薬を追加投与すること(ボースリクエストといいます)が可能になっています(患者管理型静脈内投与といいます)。また、このポンプには持続投与量、追加投与量などが自動的に記録する機能がついています。大橋病院麻酔科では機械式ポンプを用いて患者管理型静脈内鎮痛薬投与をうけられた患者さんのデータを用いて、これまでの鎮痛薬処方を取り返し、さらに改善することを目的として本研究を計画しました。



この研究で得られる成果は、将来脊椎手術をうけられる患者さんの術後の痛みの緩和と鎮痛薬投与に伴う合併症の軽減につながります。

【研究対象および方法】

この研究は、(東邦大学医療センター大橋病院)倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者:2019年11月～2021年8月までに東邦大学医療センター大橋病院

において、全身麻酔下に脊椎の手術を受けた患者さんのうち、術後に機械式ポンプを用いて鎮痛薬の患者管理型静脈内投与を受けられた方。該当する患者さんは約120名と予想しています。

方 法:診療録(カルテ)および機械式ポンプから抽出したデータを解析します。

【研究に用いられる試料・情報】

情報:年齢、体重、病歴、診療の治療歴などの個人情報、手術中、手術後の鎮痛薬、制吐薬投薬状況、患者さんによる鎮痛薬ボースリクエスト回数など

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下

記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 麻酔科

職位・氏名 教授・小竹良文

電話 03-3468-1251 内線 3536